

○ 株式会社Jバイオフードリサイクルは、食品廃棄物をメタン発酵してバイオガス発電した際に発生する発酵残渣を活用して、「バイオ液肥（はまのしずく）」及び「バイオ固形肥料（はまのみのり）」を製造。

国内資源の種類

肥料の種類・肥料名称

取組の経緯・内容・成果（見込み）

- 食品廃棄物
(廃棄食品・食品原料、調理残渣等)

汚泥肥料
(液肥：はまのしずく)
汚泥肥料
(固形肥料：はまのみのり)

作物

主成分の含有量（％）、特徴等

水稲、麦、小松菜、
葉ネギ、大根、
ジャガイモ、
ゴーヤ 等

	N	P	K	C/N比
はまのしずく (液肥)	0.35	0.08	0.18	4
はまのみのり (固形肥料)	1.4	0.54	0.21	6

取組の経緯

・「食品廃棄物の再生利用の推進」や「環境に優しいエネルギーの創出」を目指すJFEグループとJR東日本グループにより、2016年8月に設立。
・食品残渣を収集し、メタン発酵により発生したバイオガスでの発電事業を実施。
・従来は、発酵後の残渣を費用をかけて焼却処分していたが、処理コスト削減とLCCO₂（ライフサイクルCO₂）の削減を目的として、肥料として有効活用することとした。

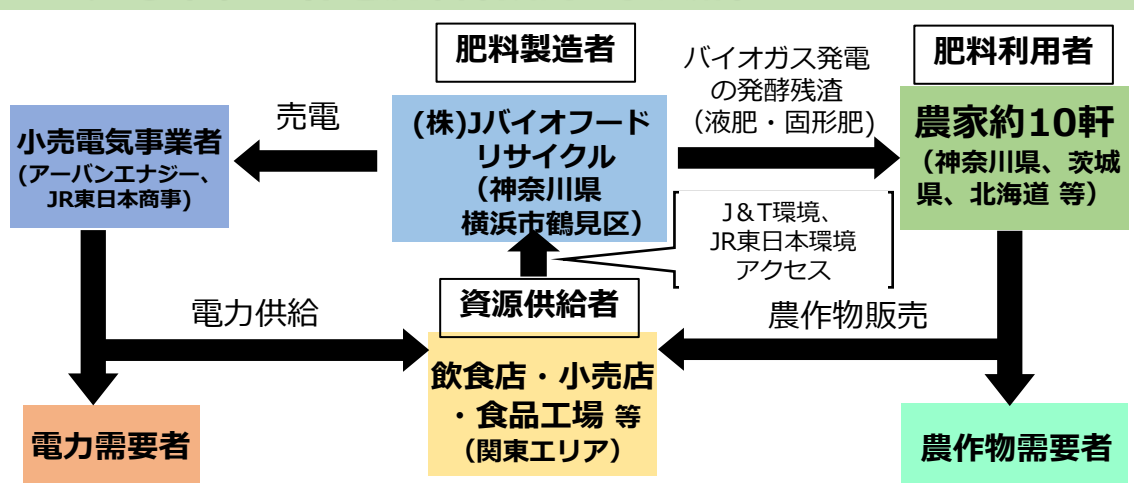
取組の内容

・メタン発酵後に発生する液状の発酵残渣を「バイオ液肥(はまのしずく)」として活用。
・「はまのしずく」は全窒素の約半分がアンモニア態窒素で比較的速効性がある。
さらに、発酵残渣を脱水した後の固形分を固形肥料(はまのみのり)として活用。

成果（見込み）

・「バイオ固形肥料(はまのみのり)」は、長期的な肥効が見込まれ、数年間連用することで、可給態窒素の増加による化成肥料利用量の削減が期待される。
・東京都内の商業施設で電力と肥料の循環利用(ダブルリサイクルループ)を実現した。

主たる取組主体と肥料利用までの流れ



今後の課題・取組

- ・「はまのしずく」はほとんどが水分のため、運搬と散布にコスト高の傾向、「はまのみのり」は散布にマニュアルスプレッダが必要。
・需要期に合わせた安定した供給及び保管体制の確立が必要。

